

2017年度 Joint Education Program

(シーナカリンウィロート大学タイ語・タイ文化研修コース) 報告書

1. 実施概要

- 実施目的 : タイ語能力の向上、タイ国・タイ文化への理解促進、タイ人大学生との交流促進
 研修期間 : 2018年2月5日(月)~2月21日(水)
 参加人数 : 18名(タイ科1年生)
 協力機関 : タイ国立シーナカリンウィロート大学(MSW)
 実施場所 : SWU内教室、SWU学生自宅、ラヨン 等

2. 実施プログラム

(T)=タンデム学習、G1=Group1、G2=Group2

	AM	PM
2/5(月)	オリエン+開会式	13:30-14:30 発音修正(G1+2) 14:30-17:00 (T)「故郷」プレゼン準備(-17:00)
2/6(火)	読み書き	13:30-14:30 発音修正(G1) 13:30-15:30 (T)「故郷」プレゼン(G2)
2/7(水)	(T)絵本	13:30-14:30 発音修正(G2) 13:30-14:30 (T)大学探索(G1) 14:30-15:30 (T)大学探索(G2)
2/8(木)	料理と飲み物	13:30-14:30 発音修正(G1) 13:30-15:30 (T)TVCM(G2)
2/9(金)	招待・依頼・許可の方法	13:30-14:30 発音修正(G2) 13:30-15:30 (T)TVCM(G1)
2/10(土)-11(日)	ホームステイ	
2/12(月)	休日	
2/13(火)	伝統行事と衣装	13:30-14:30 発音修正(G2) 13:30-15:30 (T)「故郷」プレゼン(G1)
2/14(水)	読み書き	13:30-14:30 発音修正(G1) 14:30-17:00 (T)料理実習(G1+2)
2/15(木)-17(土)	研修旅行(ラヨン)	
2/18(日)	休日	
2/19(月)	単語と慣用句	スピーチの準備
2/20(火)	スピーチ	閉会式
2/21(水)	帰国	

【タンデム学習について】

日本人学生とタイ人学生がペアになり、互いの得意な言語や文化を教え合いながら、各学習者自身が互いの学習の

ために協力し合いながら、相互文化理解と言語能力の向上を図ることを目的として企画・実施。今回のプログラムでは、5つカリキュラムを実施。

1) 「故郷」プレゼン

- ・ 日本人とタイ人で各3名のグループを作り、その中の1人の故郷を紹介するプレゼンを各学生の学習言語で行い、発表内容についてグループディスカッションを実施(発表言語にて)。
例) 広島=原爆ドーム/千羽鶴、福島=野口英世、バンコク=観光客数、パトウンターニー=外国人労働者 など
- ・ 聴衆であるタンデム学習者ペアは、相互にプレゼン内容等を補完説明。

2) 絵本

- ・ 日タイの絵本を学生が持ち寄り、タンデム学習者ペアで物語の概要を説明。
- ・ 絵本を交換し、それぞれの読解を助け合い、気に入った場面を翻訳し、発表。
- ・ 最後に日タイの絵本から見出された日タイの文化的・言語的特徴をまとめ、発表。

3) 大学探索

- ・ 5~6名のグループ(タイ人と日本人 各2~3名)で、簡易版オリエンテーリングを実施。課題が書かれたカードを手渡され、カードに記された大学内の指定の場所へ行き、グループメンバーで協力し、各課題を解決。

4) TCVM

- ・ 5~6名のグループ(タイ人と日本人 各2~3名)内で、日タイの面白いTVCMをお互いに紹介。
- ・ それぞれのTVCMから見出された日タイの文化的・言語的特徴をまとめ、発表。

5) 料理実習

- ・ 5~6名のグループ(タイ人と日本人 各2~3名)で、タイの伝統お菓子(ルークシュップ)と日本のおにぎり(キャラおにぎり)を共同制作。
- ・ 各グループ内での料理の作り方の説明は、日本人は日本語で、タイ人はタイ語で行う。
- ・ 2/14であったことから、「バレンタイン(ハートなどをモチーフ)」をテーマとして、グループ対抗のコンテスト形式で実施。
- ・ それぞれの料理や料理の周辺情報(例:キャラおにぎり→テーマとしたキャラクターの説明 等)を紹介することで、文化の相互理解を深めることに加え、共同作業を通し、連帯感を醸成。

3. 総括

- ・ 本プログラムを通し、実施目的が全て達成できており、総体的によく企画されたプログラムである。
- ・ 日本人学生のタイ語力向上に大きく貢献。
 - ✓ 閉会式に学生全員のタイ語でのスピーチがあったが、表現力、語彙、発音など、プログラム前と比べ総合的なレベル向上が顕著。
- ・ タイ文化への造詣を深めることが出来る体験型プログラムが充実。
- ・ 今回初の試みとして、SWU の日本語専攻の学生とのタンデム学習がプログラムに組み込まれたが、タイ語力向上だけでなく、授業を通して、SWU 学生の交流も深めることにも大きく貢献。
- ・ 但し、タンデム学習については、以下の点について要検討。
 - ✓ タンデム学習へ参加する SWU 学生は 2～4 年生と幅広かったが、3～4 年生となった場合はタイ人学生の日本語のレベルの方が日本人学生のタイ語のレベルより高く、タンデム学習授業中のコミュニケーションは日本語による時間が長くなる傾向が見られた。
 - ✓ 次回以降、カリキュラム内容に応じて、タイ人学生と日本人学生の日本語/タイ語レベルをより近いものが望ましい授業を注意深く検討し、より適切な人選を要検討。

4. タンデム学習の様子



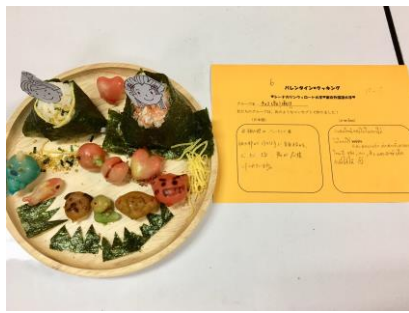
日本人学生はタイ語で、タイ人学生は日本語で、それぞれの「故郷(日 or タイ)のトピックを発表
(プレゼン準備は双方でサポート)



絵本を用いた授業



日タイ TVCM 比較



料理によるタンデム授業

以上